

和 洋 食 器 の 開 発

尾形 尚子*

池本 周*

飯島 義彦*

1. 緒 言

笠間粘土は鉄分を含有するため、焼き上がりが茶褐色を呈する。そこで、白化粧や釉薬をうまく利用することで、表現の幅を広げ、多品種少量生産を得意とする笠間焼ならではの特徴を活せる。今回は、「憩いのある時」をサブテーマとしてオリジナルあふれる和洋食器を開発した。

2. 内 容

2.1 試作品

(1) 3種の和食器～憩いのある時

笠間土にあう化粧土を開発し、暖かみのある土味を活かし、落ち着きのある和食器をデザインした。形態をシンプルな朝顔型に統一し、白を基調とした若年層向け。家庭で使用することを想定し、ページュを基調とした青年層向け。見た目の渋さにこだわり黒を基調とした壮年層向けの3種を試作。

(2) ティー&デザートセット～憩いのある時

柔らかみのある色を基調に、すこし不思議な雰囲気を楽しみながら心に潤いのあるひとときをすごせる器をデザインした。リラックスできるひとときとして、ティータイムを想定し、ティーポット、カップ、デザート皿等を試作した。色は伝統釉の白萩釉を基調に、淡い緑、水色、ピンク等の着色石灰釉を二重掛けし、釉薬の濃度をうまく利用することにより、流動模様を浮かだせた。

2.2 使用粘土

- ・笠間焼協同組合粘土

2.3 成形方法

- ・ろくろ成形、タタラ成形

2.4 加飾方法

- ・白化粧土による加飾
- ・ロウ抜き二重掛け

2.5 焼成方法

- ・焼成窯炉：電気炉，酸化ガス炉・灯油炉，還元
- ・焼成温度：1250
- ・使用釉薬：透明釉，ページュマット釉，光沢黒釉，白萩釉＋着色石灰釉（陶試紅，トルコ青等）

3. 結 果

試作品は、全国陶磁器試験研究機関作品展開催実行委員会主催の「陶&くらしのデザイン展2000」に出品し、好評を得、「日本セラミック協会賞」を受賞した。全国展のアンケート内容の一部を紹介する。「デザインが良い、色彩が良い、現代的で暖かみがある。」「生活に密着していて親しみやすかった、雰囲気が良い。」「色や表現が良い。」等。

これにより、伝統的な技法にほんの少し味を付けるだけで、新しい製品の展開が図れた。今後は、伝統的な技法を見直し、そこから新たに学べるものを見つけていきたい。



図1 3種の和食器



図2 ティー&デザートセット